

報道部震災特集

毎年報道部では2011年3月11日に発生した東日本大震災の特集記事を作成しています。今年も部員が福島第一原発の見学に赴き、そこで感じたことや原発の今を東北大学新聞2018年4月号から6月号まで特集記事として伝えました。そちらも併せてご覧ください。



東北大学新聞では、被災地に赴き現状を探っていく「復興の今」というコーナーを毎年不定期で設けています。今年も河北新報社福島総局のご協力の下、ボランティア団体に所属する部員とともに、2月に福島第一原発敷地内を視察することができました。

今回の視察では、事故を起こした原子炉建屋のほか、作業員の大型休憩所、廃棄物関連施設となる予定の区画などを巡りました。特に原子炉建屋には、1号機の手前80mまで接近することができ、事故による爆発の威力がまざまざと感じられました。

視察を通して、東京電力の福島県に対する思いを聞くことができました。敷地内の休憩所にある食堂では、福島県産の食材にこだわったメニューが並び、福島県産の食材のおいしさを実感しました。東京電力の職員からも、「福島は復興の一丁目一番地」との言葉をいただきました。

廃炉作業はまだ始まったばかりで、私たちの世代まで続く大きなプロジェクトです。私たちの世代が原発事故や廃炉作業について関心を高め、福島県との向き合い方を考えていく必要性を痛感しました。

報道部として、これからも震災と向き合い、「復興の今」を伝え続けていきます。



仲間を創る!

報道部編集長 皆川晃希

こんにちは。報道部編集長の皆川晃希と申します。

私が大学生になって2年半の月日が過ぎようとしています。これまでの時間で本当に様々なことを経験してきました。慣れない土地での一人暮らし、高校までの授業とは違った雰囲気を持つ大学での講義と新しいことがたくさんでした。

私はもともと新聞に興味があり、報道部に入学しようと決めていました。大学での部活もまた高校のものとは違った雰囲気を感じました。周りには頼りがいのある同級生や優しい先輩方がいて、色々なことを教えてくれたり、相談に乗ってくれたりしました。慣れない土地での過ごし方や授業の受け方、勉強のコツなどを教わり、私の抱えていた大学生活への期待と不安が混ざった気持ちを和らげてくれました。

この2年半の大学生活を振り返ってみると、何かあった時にそばにいてくれたのは部活で知り合った仲間たちでした。先輩後輩問わず、多くのことを一緒にやってきました。大学でできた仲間は高校までにできた仲間とはまた違った付き合いをすることができます。そんな貴重な存在である仲間をぜひ作ってほしいです。

東北大学には文化系、体育系共にたくさんの団体が存在しています。種類は多種多様で、ひとつひとつに違った雰囲気や特徴があります。まだ課外活動団体に入っていない方は今からでも、また、まだ大学生になっていないこの広報紙を見ている方は大学生になったら部活やサークルに参加してみてください。かけがえのない経験ができると思います。



学友会費納入のお願い 学友会は皆さんの会費で支えられていますので、学友会費の納入にご協力をお願いします。

問い合わせ先 **022-795-3983** (活動支援係: 教育・学生総合支援センター1階2番窓口)

学友会報道部が全ページを編集しています!

学友会

本学全ての学生・教職員が会員となり、サークル活動、大学祭、新入生歓迎行事、教職員スポーツ大会などに対する支援を行っています。

この広報紙は皆さまの学友会費により作製されています。

東北大学 一年間の行事

1年間の主な行事を紹介します!

春



4月下旬: Spring Festival

部活やサークルが講義棟の教室を使って活動紹介やパフォーマンスを行います。



6月: 北雄杯

川内キャンパスから青葉山キャンパスをコースとして行われるマラソン大会です。

夏



7月: オープンキャンパス

東北大学を志す学生が訪れます。学部やサークルごとに様々な企画も準備されています。



七大戦

旧帝大七校が合同で開催するスポーツ大会です。種目ごとに順位に応じたポイントが加算され、総合ポイント数を競います。他大学と親睦を深め、ともに競い合う大会です。

秋



9月: ホームカミングデー

OB/OGの方々が東北大学に帰ってきて在校生や教職員と交流をします。コンサートや親睦会など、様々なイベントも開催されます。

冬



文化部・体育部合同表彰式

課外活動の1年間の成果を表彰します!



11月: 大学祭

学生たちが様々な出し物をします。ステージでは有名人に会えるかも!?



学生会に所属する部活のイベントも盛りだくさん!

七大戦凡の意気込み



空手道部



学生会空手道部は、七大戦での優勝を目指しています。昨年の七大戦は、男子6位、女子3位で終わりました。七大戦は団体戦のため、経験者がいくら勝ってもチームでは勝てないことを痛感しました。空手では気持ちが勝敗を左右します。そのため、初心者は気持ちで勝ち、経験者は実力で相手の勢いを抑え込むことを意識して練習に励んでいます。堅実な努力を重ねることで、実力も気持ちも高め、優勝したいです。



女子バスケットボール部



女子バスケットボール部は昨年の七大戦で全勝し、久しぶりの優勝を飾ることができました。今年の七大戦でも全勝優勝することを目標にしています。現在のチームは17人で活動しています。このチームは個性的なメンバーが多く、練習の前後には笑いが絶えないような良い雰囲気練習できています。試合の鍵となるセットプレーを重視しながら、一人一人の長所を生かした「全員バスケ」を目指して戦います。

七大戦が今後の大会への弾みとなるように、頑張っていきます。



他の部も頑張ってます

目指せ七大戦 総合2連覇!!